

# OMU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OMU students



## プロフィール (Profile)

氏名 内田 時央 (Tokio Uchida)  
所属 情報学研究科 基幹情報学専攻  
学年 修士 2 年

留学先 DFKI (ドイツ人工知能研究センター)

留学期間 2024/3/22~2024/9/21

## 留学レポート Study Abroad Report

### ● 留学を決めたきっかけ

私は小学一年生の時に家族旅行でドイツ・スイスを訪れて以来、海外（特にドイツ）で生活することに対して強い憧れを持っていました。そして大学三回生の時、ドイツの研究所と交流が深い研究室があると知り、その研究室に入ってドイツへ留学することを決意しました。留学を決意してからは留学先で必要となる英語力や専門知識を身に着けるため大学の講義や研究に励み、修士 1 年を終える頃には本学の英語顕彰や TOEIC 顕彰、また国内学会（第 22 回情報科学技術フォーラム）で論文賞を受賞するなどの実績を重ねたのちに修士 2 年の春から実際に留学しました。

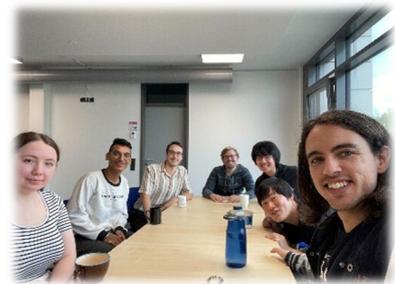
### ● ドイツに暮らして良かったこと

まずドイツの人々に関して、よく「日本人とドイツ人は似ている」と言われるようにドイツには日本人のように真面目で優しい人が多かった印象があります。実際、私がドイツに来たばかりの頃にレストランやスーパーなどでドイツ語が分からず困っていると、周りの人が英語で話しかけてくれて助けてもらったことがあります。またドイツの日常生活に関して、私が留学していた時期はヨーロッパでサマータイムが適用されており日中の明るい時間帯が長かったため日本よりも研究など多くの活動に取り組めたと感じています。さらにドイツはヨーロッパの中心に位置しており周辺の国々へ行きやすいため、週末には友人とドイツ国内だけでなくフランスやオランダ、ベルギーなどに旅行したことで楽しく過ごせました。



## ● 留学先の人々との交流

DFKI はドイツだけでなくインドやチリなど様々な国のメンバーで構成されていましたが、どの人も研究者として優秀だけでなく人柄も良かったことが印象的でした。私は AI を活用した英語学習の支援を行うシステム開発の研究に従事しており、留学期間ではプロトタイプ開発や予備実験に取り組んでいました。その際 DFKI のメンバーは自身の研究で忙しい中でも予備実験に参加し、建設的なアドバイスやコメントを与えてくれたことで研究をより良いものにできました。また平日の昼食やコーヒー休憩の時間には皆で集まって雑談するなど積極的にコミュニケーションを取れたことも良い経験になりました。さらには DFKI の現地の研究者だけでなく、私と同様に他大学から留学していた日本人とも一緒に外食や旅行を通して仲良くなれたことも非常に良かったです。



## ● 留学で学んだこと

それこそ英語の会話表現や研究の進め方など多くのことを学びましたが、特に留学をしたことで初めて学んだこととしては日本とドイツにおける生き方の違いです。例えば早く終わらせたいたい仕事がある場合、日本では仕事を終わらせるために夜遅くまで残って働くイメージがありますが、ドイツでは定時に仕事を止めて夜に友達と食事に行くなどオンオフの切り替えがはっきりしているイメージがありました。一方で日本では電車などの公共交通機関は基本的に時間通りに運行しますが、ドイツでは意外にも電車が遅れることが多くルーズな一面もあると知りました。このように短期間の旅行ではなく長期間の留学という形で海外に住んだことで日本と海外の各々の良さを知ることに繋がったと感じています。

## ● 留学で大変だったこと

留学前に関しては、留学に行くことと決まった時期が 2023 年 12 月ごろで実際に渡航するまで 3 か月程度しか無かったため、パスポートの更新や宿泊先の確保など必要な準備を短期間で行うことが大変でした。この際、すでにドイツ留学していた研究室のメンバーから留学のアドバイスを貰うことで効率よく準備を進めることが出来ました。また留学中に関しては、自身の英語が拙いことでうまくコミュニケーションを取れないことも何度かありましたが、日々英語に触れることを通して少しずつ英語が分かるようになったことで大きなハプニングやトラブルもなく留学を終えることができました。ただしドイツ特有の問題として、食生活がジャガイモや肉料理に偏りがちになってしまうため、自分で色々な料理を作るよう自炊の練習をしておけばよかったと感じました。

## ● 最後に

私も正直、留学する前は「言葉が通じるのか？」や「研究を進めることが出来るのか？」といった不安を多く抱えていました。しかし実際に留学してみると毎日楽しいことが多く、気が付いたらあっという間に半年間が過ぎていたという感覚でした。そのため留学することに対して少しでも興味を持っている場合、悩む前にとりあえず実現するための行動に移すことが大切だと思いました。そして実際に留学を終えると海外で生活したという経験が自信になり、今後も大抵のことに対して臆することなくチャレンジする精神が身に着いたと感じました。留学に興味のある人にとって、このレポートが少しでも後押しになれば幸いです。皆さんも是非、留学に挑戦しましょう！